

平成 22 年 9 月 10 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2009

課題番号：19720035

研究課題名 (和文) 初期アッティカ黒像式陶器の技法と図像に関する研究

研究課題名 (英文) A Study on the Development of the Early Attic Black-Figure Pottery

研究代表者

平山 東子 (TOKO HIRAYAMA)

独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館 学芸課 リサーチフェロー

研究者番号：50421839

研究成果の概要 (和文)：本研究は、紀元前6世紀前半の初期アッティカ黒像式陶器の展開を様式、図像、技法、器形、出土分布などから多角的に跡づけ、その形成過程と古代地中海世界における社会的機能をさぐることを目的としている。そのケーススタディーとして、初期アッティカ黒像式陶器を代表的する陶画家の一人である逸名の画家「K Xの画家 (KX Painter)」を採り上げ、関連資料の収集と調査を実施、「K Xの画家」とその周辺作品の図像と技法、装飾方法、器種、出土状況などに関する多くの知見を得ることができた。採取したデータを分析し、当該作家の個々の作品の比較や、同時代および後代のアッティカ陶器および周辺地域の陶器との比較、影響関係の考察などを行った。これらの作業と考察を通じて、「K Xの画家」とその工房の作品を明確化し、「K Xの画家」の特徴とその背景、周辺作家との影響関係、アッティカ陶器の形成期における当該作家の意義が明らかとなる。

研究成果の概要 (英文)：This study is focused on the Attic black-figure pottery in the first half of the sixth century B. C., and its development of painting style, vessel shapes, decorative schema and iconography. The “KX painter,” an anonymous vase-painter of the Komast Group, is the main subject of this research. Through the detailed examination on his work, the significance of the painter, mutual relationship with other potters and painters around him and some social function of the early Attic black-figure pottery were revealed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,400,000	0	1,400,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	630,000	4,130,000

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目：美学・美術史

キーワード： 古代ギリシア，地中海，考古学，神話，土器

1. 研究開始当初の背景

従来の陶画家の個別研究においては、様式分析に偏ったものや、図像もしくは器形の分析に終始したものが一般的であったが、本研究では一人の陶画家を軸とし、その現存する全作品の様式、図像、器形等の総合的な分析と社会背景をふまえた解釈を試み、複層的に初期アッティカ黒像式陶器の形成のプロセスをとらえ、コリントス陶器の影響下にあった一地方様式陶器にすぎなかったアッティカ陶器がいかにして地中海世界全域に広く受け入れられるようになっていったのかを問い、古代地中海世界におけるアッティカ陶器の社会的機能を明確化する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、初期アッティカ黒像式陶器、すなわち古代ギリシア、アテナイを中心とするアッティカ地方において、紀元前7世紀末から紀元前6世紀前半にかけて制作された黒像式陶器の展開を様式、図像、描画技法、器形、出土分布、用途、交易などの観点から多角的に跡づけ、その形成過程と古代地中海世界における社会的機能を明らかにすることにある。

3. 研究の方法

初期アッティカ黒像式陶器の形成に重要な役割を果たしたと目される逸名の陶画家「K Xの画家 (KX Painter)」を主たる研究対象として取り上げ、この陶画家およ

びその周辺作品を可能な限り網羅的に調査し、器形や図像、技法、様式、出土分布を精査、分析することによってこの画家の実相にせまる。

- ・「K Xの画家」、および初期アッティカ黒像式陶器に関連する文献を渉猟し、「K Xの画家」の作品の所在、保管状況などを調べ、所蔵先の博物館、考古監督局等の関連機関から研究許可を取得し、調査を実施する。
- ・作品の観察、実測、撮影を行い、作品に関連する資料、出土状況、関連作品の調査、情報収集をする。
- ・調査中に入手したデータ、資料をまとめ、「K Xの画家」の器形、様式、図像、周辺画家との影響関係等の分析を行い、作品カタログを作成、論文を作成する。同様の研究はすでに「K Xの画家」と関連の深いアッティカの陶画家クレイティアスに対してすでに実施しており、その調査結果とも比較を行い、「K Xの画家」の式アッティカ黒像式陶器に果たした役割を浮き彫りにする。

4. 研究成果

本研究は、紀元前6世紀前半の初期アッティカ黒像式陶器の展開を様式、図像、技法、器形、出土分布などから多角的に跡づけ、その形成過程と古代地中海世界における社会的機能を明らかにすることを目的としている。そのケーススタディーとして初

期アッティカ黒像式陶器を代表的する陶画家の一人である逸名の画家「K Xの画家(KX Painter)」を採り上げている。

本研究により、「K Xの画家」とその周辺作品の図像と技法、装飾方法、器種などの特色に関する多くの知見を得ることができた。本研究によって得られた「K Xの画家」の作品研究の成果から、「K Xの画家」の同時代および後代のアッティカ陶器の陶工・陶画家に及ぼした影響や、工房の系譜、周辺作家の作品に見られる図像表現との比較などについて、中央公論美術出版より刊行した **Kleitias and Attic Black-Figure Vases in the Sixth-Century B.C.(2010)** に発表した。(下記引用) さらに本研究の成果をまとめ、「K Xの画家」の作品に関するデータを編纂し、その様式的特徴や周辺作品との影響関係、とくにコリントスやイオニア、ラコニア地方などの周辺地域の東方化様式陶器との関わりと、その背景となる当時の陶器の輸出状況や東方世界との交流に焦点を当てた論文を執筆中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[図書] (計1件)

Toko HIRAYAMA, 中央公論美術出版
Kleitias and Attic Black-Figure Vases in the Sixth-Century B.C., Tokyo, Chuokoron-Bijutsu-Shuppan 2010, 316 p.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平山 東子 (TOKO HIRAYAMA)
独立行政法人国立美術館国立西洋美術館・学芸課・リサーチフェロー
研究者番号：50421839

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：